

水曜アカデミア  
第2話レポート  
「Renegade Circus」

2021年8月

# 目次

■	はじめに.....	3
■	プリプレイ .....	4
□	ストーリー.....	4
□	トレーラー.....	4
□	キャラクター紹介.....	5
□	ハンドアウト.....	6
■	オープニングフェイズ.....	7
□	シーン1：桜庭 OP.....	7
□	シーン2：桐島 OP.....	9
□	シーン3：雨宮 OP.....	10
□	シーン4：七種 OP.....	11
■	ミドルフェイズ .....	12
□	シーン5：リハーサルの始まり、そして襲撃する影.....	12
□	シーン6：感情の発露 .....	25
□	シーン7：そして仮面は踊る .....	27
□	シーン8：黒き獣よ、舞い踊れ.....	28
■	クライマックスフェイズ .....	34
□	シーン9：山間部にて .....	34
□	バックトラック .....	52
■	エンディングフェイズ.....	53
□	シーン10：戦いの後に .....	53
□	シーン11：大団円.....	58

## ■ はじめに

本作は、F.E.A.R.社作「ダブルクロス The 3rd Edition」において、2021年に行われたリレーキャンペーン第2話を、そのログを元に一部修正し、リプレイとしてまとめたものである。

ステージ”オーヴァードアカデミア”が舞台であり、それらの公式NPCとの面識があるものとして進行する部分はあるが、前話の内容について熟知している必要はない。

ただし、第1話である「Into the Storm」については、今回七種PLとして参加されているGMが公開し、再配布可としているため、ぜひとも併せてご一読いただきたい。

リレーキャンペーンの一連の流れを把握するためであれば、再配布は広く歓迎するものである。

## ■ プリプレイ

### □ ストーリー

本作は、“学園”に存在するサークルとして、体操部が存在するものとして展開する。

体操部は、毎年恒例の催し物として、オーヴァードの能力を演出に利用したサーカスを開き、オーヴァードと一般人の共生を図っているのだ。

だが、そのような華々しい催し物をよしとしない人物もいる。

彼女を扇動し、騒乱を巻き起こそうとするディオゲネスクラブの野望を打ち砕くことはできるのだろうか。

### □ トレーラー

オーヴァードが用いるエフェクト。

それは華麗なる御業か、恐るべき兵器か。

獣が宙を舞い、男は火を吹き、美しき声の人々を魅了する。

レディース・アンド・ジェントルメン！

この度は体操部主催、小さな小さなサーカス劇場へようこそ！

どうかこのひと時の催しが、皆様の心に留まりますよう……それでは、お楽しみください。

二つの思い、相反する価値観は絡み合う。

どちらが善で、どちらが悪か……誰が断言出来るというのだろうか。

天秤は揺れ続け、均衡を保っている。

では一つ、仮面を放り込むとしよう。

ダブルクロス The 3rd Edition

「Renegade Circus」

ダブルクロス――

それは裏切りを意味する言葉。

## □ キャラクター紹介

### ▼ ベゼウエイン・メカネス “歩き出す鉄騎” 七種 七楽

元 FH チルドレン候補生の少年。

過去に施された手術の後遺症により両足が動かないため、常に歩行支援機に搭乗している。

《巨匠の記憶》によるヴィークルを用いた攻撃を得意とするほか、《クロックフィールド》による【行動値】支援などが可能である。

本作では、体操部部長である友人に頼まれて会場の設営を手伝っていたことから、事件に関わることとなる。

### ▼ ヒーロー・ソング “英雄賛歌” 桐島 啓一

UGN 職員を親に持つチルドレン。

自己犠牲的な人間であり、誰かが怪我をしそうになるたびに、エフェクトを使用してダメージを肩代わりしている。

D ロイス【優しい奇跡】による《ディヴィジョン》を《多重生成》により拡大するのがメインコンセプトだが、《雲散霧消》によるダメージ軽減、《狂戦士》による支援なども可能。

本作では、前話の黒幕に気に入られてしまったことから、なぜか内通を受け、事件に関わることとなる。

### ▼ フルハイドラジラムジャケット “腐り落ちた自叙伝” 桜庭 清羅

風紀委員会に所属する少女。

マスターエージェントに育てられた過去を持つ水銀使い。

《ハンドレッドガンズ》を両手に構え、強力な一撃を放つ。

本作では、風紀委員として立ち会ったことから、事件に関わることとなる。

### ▼ アイロニー・オブ・フェイト “昨日は曇り、今日は晴れ” 雨宮 未羽

数理部に所属する一般生徒。

UGN 高官の娘であるが、実子でなく、実は母のクローンである。

D ロイス【複製体】による《雨粒の矢》でシーン攻撃を行うほか、ピュアノイマンによる《常勝の天才》は味方のあらゆる攻撃を必殺の一撃に変える。

本作では、招待客として会場に居たこと、また、過去の事件の縁により、事件に関わることとなる。

### ▼ オーダー “静粛に” 佐藤 堇

遺産を研究するセルに所属していた、元 FH。

入島後、FH の秘密結社“ディオゲネスクラブ”として活動していた。

遺産調査の許可と過去の行為の不問を条件に UGN 側に寝返った。

## □ ハンドアウト

### ▼ 七種 七楽

ロイス：黒瀬 華<sup>1</sup>：友情／任意

君は友人である黒瀬華に頼まれて、サーカス会場に来ている。

機械の扱いが苦手な彼女たちの代わりに、機械に詳しい君が設営を指示しているのだ。

見返りの一つであるリハーサルへの招待は、彼女たちを自由に見渡せる特別な権利である。

是非とも素晴らしいショーにしようじゃないか。

### ▼ 桐島 啓一

ロイス："プラネータ"<sup>2</sup>：任意／任意

君の部屋を突然、"プラネータ"が訪れた。

敵意はなく、むしろ情報を与えに来たらしい。

もうすぐ行われる定番の催し物、そこで何かが起こる。

友達想いの君は、全部の友達を守れるのかな？

そう言い残して、彼は消えた。

### ▼ 桜庭 清羅

ロイス：白樺 遥<sup>3</sup>：任意／任意

飽き飽きするくらい代わり映えしない、いつもの定例会議。

次の案件は、体操部からの申請についてのようだ。

体操部が毎年行っているサーカスの開催。

今年もまた、自分たちが立ち会うのだろう。

### ▼ 雨宮 未羽

ロイス：佐藤 董：任意／任意

ちょっとした要件を済ませ、誰もいなくなった帰り道に行く。

そんな君に佐藤董が声を掛けてきた。

白樺遥が仏頂面で見回っており、迂回していたら遅くなっただろう。

どうやら、苦手意識は抜けていないようだ。

---

<sup>1</sup> 黒瀬 華：体操部部長。エフェクトは受け入れられるべき才能であり、人のため積極的に使われるべきと考えている。機械の扱いは苦手。

<sup>2</sup> "プラネータ"：公式 NPC。"ディオゲネスクラブ"に所属する謎の人物。彼基準の"トモダチ"を探している。第1話でなぜか桐島が気に入られてしまった。

<sup>3</sup> 白樺 遥：風紀委員。エフェクトは取り扱いを誤れば危険であるため、厳正に管理すべきと考えている。昨年、雨宮らと共に"オーダー"が起こした事件に対処した人物。

## ■ オープニングフェイズ

### □ シーン 1：桜庭 OP

桜庭：【侵蝕率】 37→43

現在、風紀委員による定例会議が行われている。  
今のところ、滞りなく進行しているようだ。

ベアトリス<sup>4</sup>：「では、本件は以上とする」

先の議題が終わり、次の議題に移る。  
ベアトリスは担当である白樺に、説明を促す。

白樺：「それでは、説明させていただきます」

白樺：「例年通り、体操部からのサーカス<sup>5</sup>の開催予定と立ち会いの依頼なのですが…」

白樺は、少し不機嫌そうに<sup>6</sup>、説明を行っていく。  
特段、去年行われたものと変わりはない。

白樺：「以上、何かご質問ありますか？」

説明が終わり、白樺は周囲に確認を取った。  
ベアトリスを含め、他の風紀委員たちは確認したいことはないようだ。

桜庭：「あ！質問って何かお願いします！同じ部屋の子がリハ見たい<sup>7</sup>って言ってるんだけどダメですか？」

白樺：「はぁ…急に何を言い出すのですか？」

桜庭：「いや、側で見るだけなら許してもらえるかと…それに私と同じとかむしろ器用なモルフェウスなんで雑用でも役に立ちますし…どうにかなりませんか？」

白樺：「まあ…風紀委員からは特別に何名かなら招待してもよいとは聞いていますけれど？」

白樺：「ただ、風紀委員は立ち会で忙しいですから。他の誰も監督出来ませんからしっかり目を離さないでいてくださいね」

---

<sup>4</sup> ベアトリス・ハックマン：公式 NPC。風紀委員長。

<sup>5</sup> サーカス：年一度開かれる体操部主催の催し物。「風紀委員の立ち会いのもとで行うこと」「事前に人数を制限したリハーサルを行い、問題がないことを確認すること」を条件に認可されている。エフェクトを活かした華々しい演技の数々は、毎年高い評価を得ている。

<sup>6</sup> 少し不機嫌そうに：白樺にとっては、サーカスの存在は好ましいものではない。

<sup>7</sup> リハ見たい：第3話 NPC の顔見せを行いたいとのことから、登場を許可した。桜庭 PL による第3話「No One's Life」も期待されたし。

桜庭：「やったー！ありがとうございます！目をかけなくても私からひっついて離れないのでご安心を！」

白樺：「やれやれ…まあ、それでは私からは以上です」

ベアトリス：「うむ、それでは当日立ち会う人員の方だが…今年も白樺を主導に、桜庭とモブ A、モブ B…<sup>8</sup>の方で行うとする」

ベアトリス：「異論はないな？」

桜庭：「はい！」

白樺：「承知しました…はぁ」

桜庭：「一緒に頑張りましょう白樺先輩！」

白樺：「はいはい、まあやるとなったら真面目にやりましょう」

桜庭：「そういうところ頼りになります！」

そして、会議はつつがなく進行していく……

---

<sup>8</sup> モブ A、モブ B：本作には重要でない立場の風紀委員や体操部員が登場する。重要ではない。

## □ シーン 2：桐島 OP

桐島：【侵蝕率】 34→39

現在、桐島は自室で過ごしている。

最近負った傷にクリームを塗り、自分で治療しているようだ。

“プラネータ”：「おやおや、また傷を負ったのかい君は」

現れた”プラネータ”と桐島による小芝居が始まる<sup>9</sup>。

“プラネータ”：「その傷もそうだけれど、キミ、随分とトモダチ思いみたいだね」

桐島：「ん？いや今日のは赤の他人の傷の分」

“プラネータ”：「赤の他人をそこまで受け入れることがトモダチ思いだって言ってるのさ」

桐島：「ただの私欲なんだけどな……」

“プラネータ”：「そんなキミにいいことを教えてあげる。今度のサーカス…何かが起こるよ？」

“プラネータ”：「彼女が変なのを呼び出してたのは見てたから…多分、まずは化け物でも襲ってくるんじゃないかな？」

桐島：「彼女って？」

“プラネータ”：「あれ、知らない？ ”カルペ・ディエム”<sup>10</sup>って子」

桐島：「お前らん所のコードネームは俺とんと知らねえから。一般オーヴァードだし」

“プラネータ”：「そう、じゃあまあ詳しい誰かに聞けばいいさ。詳しく知れば知るほど、キミは無視できないだろうからね」

桐島：「ま……何が目的で教えに来たのか<sup>11</sup>知らねえが礼は言っておく。ありがとな」

“プラネータ”：「単にキミが知らないまま無関係に終わったら面白くないだけさ…じゃあ、いつかトモダチになろうね」

桐島：「No more ジャーム」

“プラネータ”が去り、桐島は動き始める。

桐島：「精羅に声かけておかねえとなあ……」

---

<sup>9</sup> 小芝居が始まる：上半身裸の桐島が「きゃー！エッチー！」と反応したり、ノックをせず現れたことに文句を言ったりしたが、“プラネータ”は一切意に介さなかった。

<sup>10</sup> “カルペ・ディエム”：公式 NPC。他人の感情をオモチャのように弄ぶのが趣味。サンプルシナリオでボスに仮面を与えた張本人であるため、ボスがダサ仮面と呼ばれるのは彼女のせいである。

<sup>11</sup> 何が目的で教えに来たのか：当然、この行いは善意のものではない。“カルペ・ディエム”の計画が阻止されることよりも、桐島が無関係のまま事態が収束してしまうことを嫌ったのだ。本作では、“ディオゲネスクラブ”は仲間意識よりも自己の欲望を優先する組織であると強調している。

### □ シーン 3：雨宮 OP

雨宮：【侵蝕率】 37→43

数理部の活動をしていた雨宮は、日が傾き、人気の少なくなった帰路を歩いている。

佐藤：「やあ、君も遅くなったのかい？」

声を掛けてきた彼女は、どこか参った顔をしている。

雨宮：「おや董。 いやあちょっとホッジ予想について同胞たちと熱く語り合いすぎてしまってね」

佐藤：「ふーん…まあそのホッジ予想ってのは知らないけれど随分とご満悦みたいだね」

佐藤：「こっちはさっきあの風紀委員とご対面しそうになってヒヤヒヤしたよ」

雨宮：「この世には解いたら 100 万ドル貰える問題が…と、あの風紀委員、というのは聞くまでもなく？」

佐藤：「ご想像の通り、白樺遥だね。ホント、あの頭の硬いの<sup>12</sup>に気づかれでもしたらと気が気じゃないよ」

雨宮：「問題は解決済みなのだから顔を合わせたとしても目の前で無断エフェクト使用でもしない限りは——などというのは意地が悪かったかな？」

佐藤：「まあ、そうなんだけどさ…ゴタゴタの中でお互い行方不明になった遺物とかもあるんだよ？ 下手にバレたらそのあたりでまたネチネチ言われるに決まっているだろう…」

雨宮：「人間関係というものが……数学の証明のように、長い道程だろうと必ず解答があるものであれば、我々も苦労はしないのだがね…」

雨宮：「まあ了解だ。 ベッキーとも知らない仲ではない程度ではないし、こちらからもなるべく接触を避けるように取り図っておくよ」

佐藤：「ぜひとも、君と知らない仲でもなしよろしく願いますよ…」

その後、しばらく話した後<sup>13</sup>、二人は寮につき、一日が終わった。

---

<sup>12</sup> 頭の硬いの：“オーダー”の正体が佐藤であることは、関係者全員に通知されるはずであったが、上層部判断により白樺には秘密となっている。

<sup>13</sup> しばらく話した後：董が学園生活を楽しんでいるか、また、雨宮の役回りについて等、キャラ造形を深める話が続いた。

## □ シーン 4：七種 OP

七種：【侵蝕率】 37→44

中央の舞台を囲むように観客席が備え付けられた、特殊な空間。

七種の指示のもと、むき出しの部品が立ち並ぶ中を、慌ただしく人影が動いている。

黒瀬：「やーやー、お疲れ様ー。ほんとうごめんね？ 手伝ってもらっちゃって」

七種：「ふっ……これも高貴なる者の務めよ」

七種：「持てる技術は惜しみなく友のために使うのが義務というものさね」にやりと笑おう

黒瀬：「いやいやー、ホント七種さまさままだよー」

黒瀬：「それにしても、大分出来てきたねー、君のおかげで早く終わりそう」

黒瀬：「どの演目<sup>14</sup>が楽しみ？」

七種：「この手のことなら大得意であるからな……っと、そうだなあ」

七種：「……やはり黒瀬氏のそれ<sup>15</sup>が一番だな」

黒瀬：「そう？ 嬉しいこと言ってくれるねー」

七種：「どれも余にはできぬ芸当だが、氏のそれは文字通り逆立ちしたって敵わぬさ」

黒瀬：「そうだねー、鍛えてるだけあって機動力には自信がある<sup>16</sup>よー？」

黒瀬：「ただ、機械の事は分からないからその分は改めてお願いね」

七種：「任せておけ！ このような形でサーカスに協力できること、誇りに思うぞ！」

七種：「こういうお祭りは大好きだ！ なんてったって楽しいからな！」

黒瀬：「ありがとー！」

そうして、事無く会場は完成した。

---

<sup>14</sup> 演目：エフェクトを活かした様々なパフォーマンスが用意されている。設備へのコストが少なく済むことから、小規模の部活ながら本格的な演出が人気の秘訣である。

<sup>15</sup> 黒瀬氏のそれ：キュマイラ／ハヌマーンである彼女とサラマンダーの共演による、火の輪潜りのこと。空中に浮かべられた無数の輪を、黒い獣が縦横無尽に潜り抜ける。

<sup>16</sup> 機動力には自信がある：この直後、高速で飛び回る姿を披露して見せたが、遊んでいるとみなされて説教された。

## ■ ミドルフェイズ

□ シーン 5：リハーサルの始まり、そして襲撃する影

七種：【侵蝕率】 44→53

桐島：【侵蝕率】 39→43

桜庭：【侵蝕率】 43→50

雨宮：【侵蝕率】 43→51

リハーサル当日。PC たちは観客としてそれぞれの位置に座っていた。

黒瀬：「皆様、この度は体操部主催、小さな小さなサーカス劇場へようこそ！」

黒瀬：「それでは、リハーサルの方初めていきますのでよろしくお願いします！」

桐島：「サーカスなんて初めてだな」

桜庭：「楽しみだねソフィア<sup>17</sup>」

ソフィア：「う、うん」清羅の服の裾をひつつかんでおそるおそるといった感じで見ている

黒瀬：「まずはブルーム=ストーカーによる従者達のパフォーマンス！ 無数の同じ顔の完全に一致した動きをご覧ください！」

七種：「おおお……あまりにも似すぎていて目がチカチカしてくる……」

雨宮：「このシンクロ率…まさに従者ならではのところかな」

桐島：「よーソフィア、楽しんでるか？」

ソフィア：「あ、えと、桐島さん、去年は遠くからしか見れなくて、近くで見れて楽しい…です」

桐島：「去年も来てんの？ファンだなあ」

佐藤：「お知り合いかい？」

雨宮：「清羅の妹君のような存在だったかな？」

桜庭：「あっと、紹介するね。私の同室のソフィア・ホーエンハイムちゃんです！ 臆病だけどいい子だからよろしく！」

この後、ソフィア・ホーエンハイムとの挨拶や、関係を深めるための雑談が行われた。

桜庭：「それより舞台から目を離してるけどいいの？」

桐島：「俺ちょっとトイレ<sup>18</sup>」

七種：「お、そうだった……もうリハはずんずん進んでいるのだったな」

そして、第一演目は、統一されたフィニッシュポーズと共に終わった。

---

<sup>17</sup> ソフィア・ホーエンハイム：桜庭 PL が第 3 話関連として登場させた NPC。小柄な少女で、C ランク程度のイージーエフェクトのみ使用できる。

<sup>18</sup> トイレ：見回りのため、トイレに行く振りをして会場の外へと出た。

さて、次の演目が始まろうかというその時――大地が揺れ、轟音が響き渡る。

七種：「なんだ、随分派手な演出だな……？」

雨宮：「おや？」

ソフィア：「きゃー！」

機材の倒壊や轟音による混乱により、会場は騒然となる。

黒瀬：「原因がはっきりするまで一旦中断します！ 申し訳ありません！」

その原因はすぐに明らかとなった。山間部から巨大なオーヴァードが接近しているのだ。

白瀬：「皆さんは避難を！ 安全なところへ誘導します！」

役者や観客たちは、白瀬をはじめとした風紀委員の誘導により、安全な方へと避難した。

迫るオーヴァードに向かって、先に外へと出ていた桐島が走り出す。

桜庭：「桐島くん！ バックバック！ 一人で行くな！」

佐藤：「あれは…とりあえず、そっちの方は頼んだよ、私はちょっと別のこと<sup>19</sup>を調べてくる」

七種：「別のことって一体……」

佐藤：「今は推測段階だから後で！ そっちも今放っておけるわけじゃないし！」

七種：「……そうだな！ わかった、こちらは任せるがよい！」

七種：「高貴なる者の務め、今こそ果たしてみようぞ！」

雨宮：「やれやれ…やってやろうか」

---

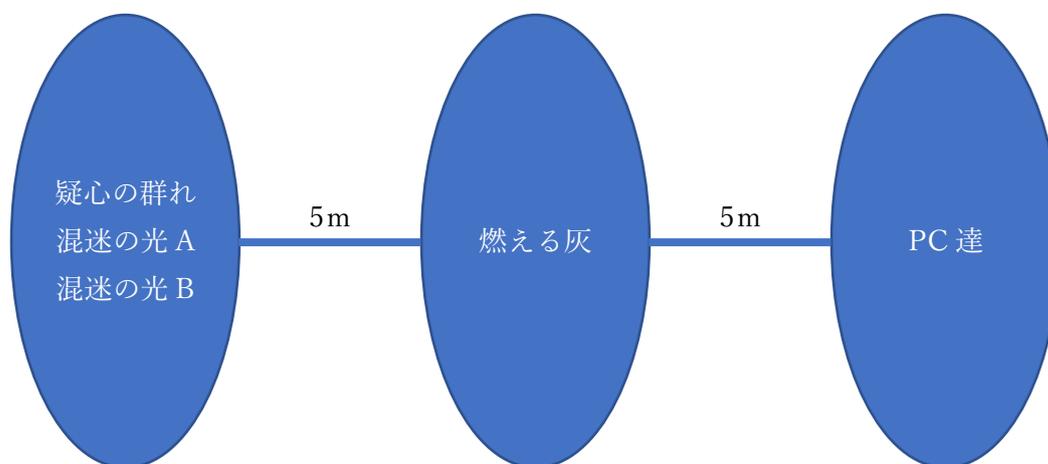
<sup>19</sup> 別のこと：”遺産”関連の資料に似た存在が記載されていたことを思い出し、それらの資料を集めに向かった。

PC 達とオーヴァードは相対する。

オーヴァードは、無数の口や腕が群体となったような姿をしており、そこから零れ落ちた影が別の存在として蠢いている。

データとしては、疑心の群れ<sup>20</sup>1体、燃える灰<sup>21</sup>1体、混迷の光<sup>22</sup>2体である。

疑心の群れのミドルで使用しない一部データを除き、PC 達にはデータを公開している。



#### 【行動値】

桜庭：13

疑心の群れ：9

燃える灰：9

雨宮：8

混迷の光 A&B：8

七種：7

桐島：7

---

<sup>20</sup> **疑心の群れ**：本作のキーとなるエネミー。ミドルフェイズでは、《バーサークセルフ》と《背徳の理》でダイスを増やし、《未知なる陣形》で拡張した《ダンシングシミター》でPC 達を攻撃する。ドッジやガードは得意ではないが、《領域の盾》によるダメージコントロールを行う。

<sup>21</sup> **燃える灰**：《先陣の火》により【行動値】を上昇させ、PC 達にエンゲージしようとする。エンゲージした場合、《災厄の炎》と《背教者殺し》による範囲攻撃が行われる上に、《レネゲイドディゾルバー》を持つため、《雲散霧消》が打ち消されてしまう。

<sup>22</sup> **混迷の光**：《ショウタイム》により、自身以外への攻撃を牽制し、自身への攻撃に対しては《竜鱗》で軽減する。自身以外への攻撃を《領域の盾》でカバーリングさせられた場合は装甲0のため非常に脆い。

## ▼ 1 ラウンド目：セットアッププロセス

1 ラウンド目のセットアッププロセス<sup>23</sup>では、桐島、七種が PC 達の行動値を上昇させ、桜庭が暴走と引き換えに自身の火力を強化、雨宮が他 PC の火力を強化した。

エネミーは、燃える灰が自身の【行動値】を上昇させたが、他 PC の【行動値】には及ばなかった。  
混迷の光は、AB 共に、PC 達へ条件付きのダイスペナを与え、【誘蛾灯】<sup>24</sup>となった。

七種：【侵蝕率】 53→57

桐島：【侵蝕率】 43→50

桜庭：【侵蝕率】 50→53

雨宮：【侵蝕率】 51→57

### 【行動値】

桜庭：13→26

雨宮：8→21

七種：7→20

燃える灰：9→19

桐島：7→12

疑心の群れ：9

混迷の光 A&B：8

## ▼ イニシアチブプロセス

桜庭前のイニシアチブプロセス<sup>25</sup>では、疑心の群れが暴走し、自身の判定ダイスを増加させた。

---

### <sup>23</sup> 1 ラウンド目のセットアッププロセス：

桜庭：怨念の呪石 侵食値3 暴走

燃える灰：《原初の黄:先陣の火》：【行動値】+10。1 シーン 1 回。

雨宮：《常勝の天才》 自分以外 atk+28

混迷の光 A&B：【誘蛾灯】:原初の黄:ショウタイム+ラピッドファクトリー+幻想の色彩 このエネミーを含まない攻撃を行う場合判定ダイス-2。

七種：《クロックフィールド》セットアップ/自動成功/範囲(選択)/至近/4/RW34/ラウンド中【行動値】+5/  
シナリオ[LV]回

桐島：Set:アクセラ+タブレット+多重生成 視界:3人:行動値+8:侵食値+7

<sup>24</sup> 【誘蛾灯】：本作では、エフェクトの重複について、同時に効果を適用することはないが持続状態であり、可能な限り効果を適用するものとした。すなわち、混迷の光 A と混迷の光 B を両方対象に取っていない限り、判定ダイス-2 のペナルティを受ける(どちらも対象に取っていない場合でも、受けるペナルティは-2 のみ)。

### <sup>25</sup> 桜庭前のイニシアチブプロセス：

疑心の群れ：《バーサークセルフ》:暴走し、このラウンド中、命中判定ダイス+2 個。1 シナリオ 2 回。

疑心の群れ：《背徳の理》+《極限暴走》:暴走時使用、シーン中ウロボロス判定ダイス+8 個。

## ▼ 行動値 26：桜庭

桜庭のメインプロセス<sup>26</sup>では、疑心の群れへと水銀が牙をむいた。

### 【命中判定】

達成値：26 (1 クリティカル)

### 【リアクション】

疑心の群れ：暴走中

### 【ダメージロール】

ダメージ：65 点 装甲有効

疑心の群れは《領域の盾》<sup>27</sup>を宣言。

混迷の光 B に疑心の群れへのカバーリングを行わせた。

### 【HP】

混迷の光 B：26→-39 (装甲 0)

桜庭：【侵蝕率】 53→70

## ▼ イニシアチブプロセス

雨宮前のイニシアチブプロセスでは、疑心の群れが《加速する刻》<sup>28</sup>を使用。

## ▼ 加速する刻：疑心の群れ

疑心の群れのメインプロセス<sup>29</sup>では、《オリジン：レジェンド》により判定を強化。

PC 達を取り込もうと無数の影が腕を伸ばした。

---

<sup>26</sup> 桜庭のメインプロセス：

桜庭：マイナー

桜庭：【鸞&和】：ハンドレッドガンズ+ダブルクリエイト 侵蝕値 8

桜庭：メジャー

桜庭：波旬繆砂龍 コンセントレイト+マルチウェポン+ブルータルウェポン 疑心の群れに攻撃

<sup>27</sup> 《領域の盾》：LV3 のため、1 シーン 3 回まで使用可能。

<sup>28</sup> 《加速する刻》：LV2 のため、1 シナリオ 2 回まで使用可能。

<sup>29</sup> 疑心の群れのメインプロセス：

疑心の群れ：《オリジン：レジェンド》：シーン中【精神】判定達成値+4。

疑心の群れ：《要の陣形》(1 シナリオ 4 回)+《未知なる陣形》+【汝を求む】：コンセントレイト：オルクス+原初の赤：スキルフォーカス+ダンシングシミター 5 体攻撃。

### 【命中判定】

達成値：48 (3 クリティカル)

### 【リアクション】

七種：ドッジ 11 (1 クリティカル)

桐島：ドッジ 5

桜庭：暴走中

雨宮：ドッジ 3

### 【ダメージロール】

ダメージ：31 点 装甲有効

桐島が《雲散霧消》を宣言。PC 全員が受ける HP ダメージが-25 された。

### 【HP】

七種：29→29 (装甲 15)

桐島：25→19 (装甲 0)

桜庭：23→23 (装甲 8)

雨宮：28→22 (装甲 0)

桐島：【侵蝕率】 50→54

### ▼ 行動値 21：雨宮

雨宮のメインプロセス<sup>30</sup>では、桐島の援護を受けながら、敵全員へと冷たい雨が降り注いだ。

### 【命中判定】

達成値：18 (1 クリティカル)

### 【リアクション】

疑心の群れ：暴走中

燃える灰：《イベイジョン》ドッジ 14

混迷の光 A：《原初の緑:竜鱗》装甲値+20

### 【ダメージロール】

ダメージ：31 点 装甲有効

---

### <sup>30</sup> 雨宮のメインプロセス：

雨宮：《六月の雨》：《雨粒の矢》 + 《マインドエンハンス》 + 《虚構のナイフ》

桐島：Auto:A ランクサポーター ダイス+2 個:自分対象不可:浸食値+2

疑心の群れは《領域の盾》を宣言。

混迷の光 A に疑心の群れへのカバーリングを行わせた。

### 【HP】

燃える灰：33→2 (装甲 0)

混迷の光 A：26→4 (装甲 20)

桐島：【侵蝕率】 54→56

雨宮：【侵蝕率】 57→68

雨宮：では、未羽が掌を前に突き出すと先が鋭く尖った氷の雨が降り注ぐ、が…性質上、硬い装甲を持つ者には有効打にならない

雨宮：「うんうん、硬い敵はいいね。私が活躍できてしまっは無体にすぎる」

疑心の群れ：「オオオオオ…」

### ▼ 行動値 20：七種

七種のメインプロセス<sup>31</sup>では、七種が燃える灰のエンゲージへ移動。多脚戦車の一撃が燃える灰へと放たれた。

### 【命中判定】

達成値：50 (4 クリティカル)

### 【リアクション】

燃える灰：《イベイジョン》ドッジ 14

### 【ダメージロール】

ダメージ：86 点 装甲有効

### 【HP】

燃える灰：2→-84 (装甲 0)

七種：「雨宮氏の策が乗れば、この程度! 造作もない!」

疑心の群れ：「オオオオオ…!?!」

七種：【侵蝕率】 57→60

---

<sup>31</sup> 七種のメインプロセス：

七種：【ティタノ・マキア】《巨匠の記憶+コンセントイレイト》メジャー/運転:多脚戦車/対決/単体/武器(至近)4

行動値 12 の桐島は待機を行った。

▼ 行動値 9：疑心の群れ

疑心の群れのメインプロセスでは、再び、PC 達を取り込もうと無数の影が襲い掛かる。

【命中判定】

達成値：37 (2 クリティカル)

【リアクション】

七種：ドッジ 7

桐島：ドッジ 19 (1 クリティカル)

桜庭：暴走中

雨宮：ドッジ 0 (ファンブル)

【ダメージロール】

ダメージ：27 点 装甲有効

桐島は[行動済み]となり、雨宮へのカバーリングを行った。

【HP】

七種：29→17 (装甲 15)

桐島：19→-35 (装甲 0)

桐島：-35→4 《リザレクト》

桜庭：23→4 (装甲 8)

桐島：【侵蝕率】 56→60

▼ 行動値 8：混迷の光 A

混迷の光 A のメインプロセス<sup>32</sup>では、一番近くの七種に対し、影の腕が伸びる、が…

【命中判定】

達成値：23 (1 クリティカル)

【リアクション】

七種：ドッジ 9

【ダメージロール】

ダメージ：9 点 装甲有効

---

<sup>32</sup> 混迷の光 A のメインプロセス：

混迷の光 A：【影招き】:餓えし影

### 【HP】

七種：17→17(装甲 15)

#### ▼ 2 ラウンド目：セットアッププロセス

桐島が PC 達の行動値を上昇させた。

エネミーは、混迷の光 A が、【誘蛾灯】を使用した。

桐島：【侵蝕率】 60→67

### 【行動値】

桜庭：13→21

雨宮：8→16

七種：7→15

疑心の群れ：9

混迷の光 A：8

桐島：7

#### ▼ 行動値 21：桜庭

桜庭のメインプロセス<sup>33</sup>では、混迷の光 A に水銀が襲い掛かった。

### 【命中判定】

達成値：26(1 クリティカル)

### 【リアクション】

混迷の光 A：《原初の緑:竜鱗》装甲値+20

### 【ダメージロール】

ダメージ：34 点 装甲有効

### 【HP】

混迷の光 A：4→-10(装甲 20)

行動値 16 の雨宮は待機。

---

<sup>33</sup> 桜庭のメインプロセス：

桜庭：メジャーで混迷の光を素殴り

▼ 行動値 15：七種

七種のメインプロセスでは、七種が燃える灰のエンゲージへ移動。多脚戦車の一撃が燃える灰へと放たれた。

【命中判定】

達成値：31 (2 クリティカル)

【リアクション】

疑心の群れ：暴走中

【ダメージロール】

ダメージ：36 点 装甲有効

【HP】

疑心の群れ：27→-9 (装甲 0)

七種：【侵蝕率】 60→63

七種：「観劇を望むなら、キチンと礼儀を身に着けてからにするのだな！」

疑心の群れ：「オオオオオ…」

オーヴァードの姿は崩れ、溶けていく。

そして、虚無だけが残った。

桐島：「……一先ず、終わりか」

七種：「だな……復活の兆しもない」

雨宮：「しかしいったいなんだったんだいこりゃ」

桜庭：「やけに硬かったな…」

桐島：「が……この程度じゃわざわざ煽りに来る必要もないな……」

桐島：「二の矢がある、か……」

桜庭：「ん？何か知ってるの桐島くん？」

桐島は”プラネータ”と遭遇したことを語る。

桐島：「昨日”プラネータ”が来た。鈴音の時に灯台で会ったやつ」

七種：「……それ、大事件ではないか？」

雨宮：「啓一は相変わらずのようだね」

桜庭：「え！？聞いてない！来た時点で呼んで！」

桐島：「ごめん。今日でいいかと思ってたんだけどソフィア連れてるの見たから楽しんでほしいなって」

桜庭：「いやいや、聞いてたら留守番させてたよ。一人でしょいこまないでよ」

桐島：「いやー俺は清羅には楽しく過ごして欲しい<sup>34</sup>し」

桐島：「んでまあ、奴の言うことには”カルペ・ディエム”がサーカスにちょっかいかけるから友達守って見せろってよ」

七種：「本人が動くわけではない、のか……？」

桐島：「みたいだぜ？なんで言いに来たのかよくわかんねーよな。仲間のはずだろ？」

雨宮：「”カルペ・ディエム”も相当厄介なオーヴァードだと聞くが、ね…」

桜庭：「ディオゲネスクラブ…最近活発だね…」 拗ねて桐島くんの反応は脇へ置いておく

桐島：「せ、清羅さん……？」

ここで、避難誘導と安全確認を終えた白樺たち風紀委員が追いつく。

白樺：「急いで駆けてきたのですが…どうやらそちらの方だけで十分だったようですね」

七種：「ああ、これも桐島氏や雨宮氏、桜庭氏のおかげ<sup>35</sup>だ」

桐島：「やっべ」 堅物真面目委員長キャラが出て来たので清羅の背に隠れる

桜庭：「避難誘導で手一杯でしょう！これくらい役に立ちますよ。」 桐島が見えるようスッと横へ<sup>36</sup>

白樺：「何か誤解があるようですが…別にこういう事態でのエフェクトの使用を咎める気はありませんよ」

雨宮：「まあ正当防衛すらできないのではね」

白樺：「そもそもエフェクトは有為に使うべきであって危険性を十分承知した上で使うべきなのです。それを見世物のように…いえ、これは別の話ですね<sup>37</sup>」

雨宮：「そちらは大丈夫だったかい？」

白樺：「ええ、避難は無事完了しました。先ほどの揺れの際に転落したのも特に問題はないようです」

桐島：「それは良かった」

---

<sup>34</sup> 清羅には楽しく過ごして欲しい：

桜庭：「あー、そんな気の利いたセリフ言われたら私もストーカーになっちゃいそうだなー」

桐島：「えっ」

七種：「違ったのか……」

<sup>35</sup> 桐島氏や雨宮氏、桜庭氏のおかげ：

桐島：「おい七楽！余計なこと言うなよ！」

七種：「では訂正しよう。これは雨宮氏と桜庭氏のおかげであり、桐島何某は何も関係ないそうだ」

桐島：「えらいぞ七楽！あとで煎餅奢ってやる！」

<sup>36</sup> スッと横へ：

桐島：じゃあそれに追従して横に

桜庭：「チッ」

<sup>37</sup> 別の話ですね：

桜庭：（今日は説教しないんだ…）

白樺：「それでは、桜庭さん、一度会場に戻りましょう。少なくとも今日は続行しない方がいいと考えますのでその話をしなくてはいけません」

白樺：「他の方は…もし不都合でしたらお帰りいただいても結構です。追って連絡をよこします」

七種：「そうか……何か提供できる情報でもあればと思ったが」

七種：「現状、何もわからんままだな……余は引き下がるとしよう」

桐島：「清羅には言ったけど。ディオゲネスクラブの”ブラネータ”が”カルペ・ディエム”が元凶だってさ」

白樺：「!？」

桐島：「じゃあ俺カルペの情報探すから新情報あったら伝えるわ」

白樺：「なぜあなたがそんな情報を知っているのか<sup>38</sup>はわかりませんがやはり…ご協力感謝します」

白樺：「では…ああ、先ほどはお帰りいただいてもと言いましたが、部長殿に挨拶したいなどあるなら別に来ていただいても結構ですよ」

七種：「……なら、部長殿に挨拶だけしていこうか」

七種：「リハがこのような形で中断されたのだ、気落ちしていよう」

桐島：「俺はサーカスの部長とは辻ディヴィジョン<sup>39</sup>したくらいで面識ないし…任せるわ。ちゃんとケアしてやれよー七楽」

---

<sup>38</sup> なぜあなたがそんな情報を知っているのか：

桐島：このムーブだけ取り出すとこいつスパイみたいじゃない？

雨宮：急に情報言いだすのはね…

桜庭：清羅が全力で誤魔化す

七種：なお怪しいわ！

<sup>39</sup> 辻ディヴィジョン：

白樺：「その辻ディヴィジョンについては後でお話伺いますね」

桐島：「練習中にミスって怪我しそうになったのみたらほら、つい」

白樺：「つい、じゃありません! そういうところが問題と言っているのでしょうか!」

桐島：「でも努力してる人がただのミスで病院送りとか馬鹿らしいじゃん? 悪い努力してるわけでもなし」

桜庭：「一応フォローしますけど。さっき先輩が言ってた有為な使い方ってやつだと思いますよ」

白樺：「緊急時でもないのに管理外で無断使用すれば内容に関わらず無為です!」

桜庭：「緊急避難! 緊急避難!」

桐島：「緊急だって一怪我人出そうになってたんだし、今だってそうじゃん」

白樺：「はあ…根本的な違いについて後でじっくりと話しあう必要がありますね…」

雨宮：「いやー白樺さんお母さんみたいだね」

七種：「ふーむ……母親とはこういうモノなのか……」

雨宮：「ああそういえば私も居ないんだった…」

桐島：「俺のかーちゃんなら殴ってる」

桜庭：「よく分かんないね」

雨宮：「んではべっきーによろしくお願ひします～」

七種：「よし、励ましの言葉……励ましの言葉……思いつかな……」

こうして、一同はサーカス会場に戻った。

## □ シーン 6：感情の発露

七種：【侵蝕率】 63→69

桐島：【侵蝕率】 67→69

桜庭：【侵蝕率】 70→77

雨宮：【侵蝕率】 68→74

会場へと戻ってきた一同。

白樺は黒瀬と話し合っているが、なにやら険悪な雰囲気を感じる…

白樺：「さて、改めて確認しましたが本日は中断した方が良いでしょうね」

黒瀬：「まあそうだねー、先ほどの振動で倒れた機材などの修復も必要かな」

白樺：「まあ個人的には今年はやらなくてもいいと思いますけれどね、またあんなのが来たら困りますし」

雨宮：「いきなり消える魔球ぐらいのストレート<sup>40</sup>をぶちこんだなー」

桜庭：「いや白樺先輩、サーカス狙いとは限らないじゃないですか？」

七種：「し、修理なら任せておきたまえ！ 何度でも無償で直そうではないか！」

桐島：「会話とかできる相手じゃなかったから何が目的<sup>41</sup>だったのかもわかんねーもんなー」

白樺：「どうせ、見世物小屋にもっと大きな見世物でもぶつけようとかしたんじゃないですか」

七種：「よ、よせよせ、そういういい方は……」 おろおろする

黒瀬：「うーん、そういう言い方されると…」

桜庭：「断定が早すぎますよ、中止かどうかはいろいろ調べてからでいいじゃないですか。」

桜庭：「そんなに嫌いですか、サーカス？」

白樺：「…別に嫌いとかそういうわけではありませんが」

桜庭：「ではとげのある言い方やめませんか？」

---

<sup>40</sup> 消える魔球ぐらいのストレート：それはストレートではない。

<sup>41</sup> 何が目的：

桐島：「俺狙いでも通るしな、一応」

雨宮：「“やめて！ 啓一の為に争わないで！”みたいな？」

桐島：「誰と誰が俺のために争うんだよ？」

雨宮：「これを逃したらもう二度とない好機と見たら普通に争いそうな者らに 4,5 人は心当たりがあるんだがね？」

桐島：「多くない？」

雨宮：「まあ安心したまえ、もしそうなったとしても物理的な被害を出す事はない者らだから関係あるまい」

雨宮：「もしそうなったら色々心に傷は残るかもしれないがね」

桐島：「……後学のために誰か教えてくんない？」

桜庭：(何の話してるんだ?) ちらちら

桜庭：「この場はみんな無事でよかったってところじゃないですか？」

雨宮：「そうだーっ 私もその意見に賛成だーっ」

桐島：「そーそー折角後輩が頑張ったんだし」

白樺：「…ええまあ、わかりました。とりあえず後日もう一度リハーサルをやり直すということにしましょう」

白樺：「そこで問題がなければ<sup>42</sup>特に何も言いません」

白樺：「…もういいでしょう、話し合うこともなくなりましたから私は行きますね」

黒瀬：「うーん…まあ確かに本番は一般人の人も見に来るわけだから万が一が必要ってのはわかるんだけどねー」

桐島：「とげとげしてんねあの風紀委員」

桜庭：「すみませんねウチのが。」

黒瀬：「まあ悪くない人なのはわかるから大丈夫だよー」

桜庭：「そう言ってもらえるとありがたいですね黒瀬さん。」

黒瀬：「こちらとしても毎年色々手伝ってもらって助かってるからねー」

桜庭：「ソフィアを寮に送ったらちょっと説得に行ってみます。」

桐島：「許可も取ってんなら文句ないと思うんだけどなあ」

桐島：「まありハ前に犯人捕えられたらあの人も文句はないんじゃないかね？」

七種：「そりゃ大本を絶てば憂はなくなるだろうが……手掛かりはあるのか、桐島氏」

桐島：「それを今から俺とお前で探すんだろ！」

七種：「やっぱりい？」

桐島：「何？お前世話になってる部長さんの力にならないってわけえ？高貴なお方があ？」

七種：「わかったわかった……」

黒瀬：「あ、七種くんはちょっと時間貰っていいかな？」

黒瀬：「倒れた機械がちゃんと動くかどうかうちの部員じゃわからないから…」

黒瀬：「そのあたりだけはっきりしたらどれくらいで再リハーサルできるか決めて連絡するからまたよろしくねー」

七種：「すまん、桐島氏。後でな！」

桐島：「おーう。もう夜だし調査は明日からな」

---

#### 42 問題がなければ：

桜庭：「うーん、そこで問題があったらむしろ警備を固めるべきでは…」 小声

桐島：「俺らが警備みたいなもん…とか？」 小声

桜庭：「風紀委員動員して防ぎきれなきゃしょうがないのかな…」 小声

雨宮：「バリケードでも作っとくかい？」

七種：「作るか……障壁」

桐島：「あれにバリケード意味あるかあ？」

雨宮：「ないだろうけどこう 対策してますよアピールとしては視界効果的に一番効果あると思ってさ」

## □ シーン7：そして仮面は踊る

話し合いと調査を終え、会場を離れた白樺 遥。彼女は今山間部に居た。

"カルペ・ディエム"：「あら？ やっぱり何か聞きにきたのかしら？」

そこに居たのは、"カルペ・ディエム"だった。

黒瀬：「単刀直入に言いますが…先ほどのアレ、貴方の仕業ですね？」

"カルペ・ディエム"：「ええ、そうよ。残念ながら大したことなかったけれど」

黒瀬：「何のためにあんなことを…！ と言っても所詮あなた達のやることなど聞いても理解できるはずないですか」

"カルペ・ディエム"：「あら？ そんなことないわよ？ だってあれは貴方のためなもの」

"カルペ・ディエム"：「貴方がそう望んでいたから叶えてあげただけ」

黒瀬：「莫迦にしないでください！ 誰がそんなことを望んでいると！」

"カルペ・ディエム"：「ふふふ…隠しても色々わかるのよ？」

"カルペ・ディエム"：「貴方…怖いよね？」

黒瀬：「！」

"カルペ・ディエム"：「貴方がエフェクトを使う時…その視線には怯えがあるわね」

"カルペ・ディエム"：「傷つけるのが嫌い…？ いやそうでもないわね。攻撃にためらいがあるわけじゃない。あれは味方への視線…」

黒瀬：「黙りなさい！」

"カルペ・ディエム"に攻撃する白樺。だが彼女はひらりと躲し、白樺を拘束する。

"カルペ・ディエム"：「ダメよ、私の舞台なんだからちゃんと聞いてくれなきゃ」

"カルペ・ディエム"：「エフェクトを使いながら、味方の顔色を気にするなんて…なにがあったのかしらね？」

"カルペ・ディエム"：「憎いのでしょうか？ 好き勝手に力を使っているながら、手放しに褒められるような彼女たちのことが…」

"カルペ・ディエム"：「だから、貴方にあげるわ」

"カルペ・ディエム"は小さな宝玉と仮面を取り出す。

"カルペ・ディエム"：「何かの役に立つかと思ったのだけれど…契約しないとやっぱりゴミみたい」

彼女はその宝玉を持った手を白樺の瞳へと近づける。

宝玉は吸い込まれ、そして消えていく…

"カルペ・ディエム"：「貴方は正しいの。応援しているわ？」

□ シーン 8：黒き獣よ、舞い踊れ

七種：【侵蝕率】 69→76

桐島：【侵蝕率】 69→79

雨宮：【侵蝕率】 74→76

【HP】

七種：17→29

桐島：4→24

桜庭：4→23

雨宮：22→28

再リハーサルの日。PC 達は会場に再び来ていた。

休憩前に予定されていたすべての演目、それらは全て無事に終了した。

襲撃も特になく、平和な事態のようだ…今のところは。

佐藤：「いやー、見事なものだったね」

佐藤：「あっちの方もとりあえず何もなくてよかった、って感じかね？」

桐島：「これでまた襲撃されてたら部長には謝っても謝りきれない所だったぜ」

七種：「やれやれ……なんとか山は超えたかな」

雨宮：「とはいえ…まだメインイベントをしていないからね」

雨宮：「狙うとしたらそこではないかな、いや何が狙いか分からないけど」

桐島：「サーカスなんか潰してどうするんかねえ…」

七種：「目的が知れないというのは不気味極まりないな…」

黒瀬：「皆さんお待たせいたしました！ そろそろ再開の時間となりますのでご着席ください！」

黒瀬：「それでは、ご照覧ください！」

その一言と同時に、サラマンダーが無数の火の輪を空中に浮かばせる。

そして、黒瀬がそれらを勢いよく潜り抜けていく――

前飛び込み、バックフリップ、垂直ジャンプからの壁を蹴って下方飛び込み。

一度跳躍する度に、加速、さらに加速していく…

GM：はいここでみなさん〈知覚〉判定<sup>43</sup>の方お願いします。目標値は8です。

桜庭がいないため、【感覚】が低く、〈知覚〉が苦手な PC 達だが、あくまで予備判定であるから問題ないはずであった。

---

<sup>43</sup> 〈知覚〉判定：黒瀬の異変に早期に気付けるか、という判定。成功することで、事態への対処が容易になる、はずであった。

が、事態は思いもよらない結果に……

【達成値】

七種：15 (1 クリティカル)

桐島：15 (1 クリティカル)

雨宮：22 (2 クリティカル)

GM：すげえ！

雨宮：なんなん？

桐島：出目がおかしい

七種：妙に鋭いぞこいつら…

桜庭：すげえ

PC達は、飛び跳ねている部長の様子がおかしいことに気づく。

だんだん加速するにつれて動きが大きくなり、ついには観客席まで飛び出した。

観客席に飛び込んでなお動きは止まらず、縦横無尽に跳躍を繰り返す<sup>44</sup>……

桐島：「！？」

雨宮：「うん？何か動きが…なに？」

七種：「ウワーッ！ア、アドリブにしてはやりすぎではないか!？」

桐島：「やべえなアレ。無理矢理身体差し込んだら止めれるか…？」

GM：はい、では何もしなければ彼女は止まらないので、止めるためには【肉体】判定<sup>45</sup>となります。

GM：ただし、先ほどの知覚判定に成功していた場合、その達成値を足すことが出来ます…ファンブルしない限り成功だよ！

桐島：「じゃあ打ち合わせな七楽。俺が動き止めるからそしたらお前のメカで抑え込め」

七種：「心得た」

七種：「変形は完了だ。桐島氏のタイミングでいいぞ」

雨宮：「気を付けたまえよ」

桐島：「よし、行くぞ！」

七種：「応!」

---

<sup>44</sup> 跳躍を繰り返す：忘我状態であり、声を掛けるなどをしてしても正気に戻らない。

<sup>45</sup> 【肉体】判定：

彼女を止める場合、【肉体】16に成功すること。

先の〈知覚〉判定に成功していた場合はその達成値を判定に足すことが出来る。

【肉体】判定に失敗したPCは3d10のガード不可ダメージを受ける。

全員が失敗またはパスした場合、そのたびに難易度を-3して【肉体】判定を繰り返す。

【達成値】

七種：32 (1 クリティカル)

桐島：39 (2 クリティカル)

このような事態。誰が予想しただろうか。

PC達の活躍により、一切の備品すら傷つくことなく、騒動は収まった。

桐島：「よしっ、止めたあ！」

七種：「見たところケガはないぞ！」

雨宮：「……めちゃくちゃキレのある動きだ」

黒瀬：「うう…あれ？」

黒瀬：「なんで私ここに？」

桐島：「演目中に観客席に突っ込んできたので、俺と七楽で止めた」

黒瀬：「ええっ!？」

桐島：「呼びかけたけど返答なかったから…アンタ演目中にハイになって記憶飛んだりする？」

黒瀬：「いやー、いつもそんなことないはずなんだけどねー…そういえばなんか頭の中で声が響いていたような…」

桐島：「休憩中に、誰かと会ったか？」

黒瀬：「ええと確か…? あれ…?」

黒瀬：「うーん…」

モブ：「あれ演出じゃなかったんだ…」「まあ危ないもんね」「どうする…?」ざわめいています<sup>46</sup>

モブ：「白樺さんに聞かないと…」「あれ、白樺さんは?」「いつもこういう時真っ先に飛び込んで来そうなのに」

七種：「確かに……いの一番に飛び込んできそうなものだが、白樺氏は……」

桐島：「…ともかくだ」

桐島：「団員に聞き込みしよう。休憩中に外部の人間が来てたんなら、そいつが犯人だ」

雨宮：「悪くないけど穴はあるのではないかな」

---

<sup>46</sup> ざわめいています：

雨宮：「はいブラボー！ おおブラボー！ サプライズによる華麗な客席演技をお楽しみいただきましたー！」とか叫んでみる

モブ：「いや流石に無理があるって…」

雨宮：「おかしな漫画だとうまくいったんだけどなー」

桐島：「漫画じゃねえからな」

桜庭：そもそも部外者が言ってもな…

GM：そうだね×1

雨宮：ぐうの音も出ねえ

GM：情報収集シーンに移ろうかと思いましたが侵蝕率も大分いい感じなのでこのシーンで1回OKにしましょう

情報項目は3つ

- ・黒瀬華の乱心 (知識：レネゲイド 6 or 情報：アカデミア 8)
- ・白樺遥の行方 (情報：噂話 or アカデミア 7)
- ・サーカスを襲撃したオーヴァード (知識：遺産 6,8 or 情報：UGN 8,10)

桐島：俺は行方やろう

【情報：噂話】

桐島：9

- ・白樺遥の行方 (情報：噂話 or アカデミア 7)

事件発生の直前、サーカス会場から人気のない山間部に走り去る彼女の姿が目撃されている。目撃した生徒によると、表情は仮面で見えなかったが、苦しんでいるように見えたとのこと。

桐島：「仮面!？」

桐島：「んで山間部って例の奴が出て来た場所だから……はい確定！」

桐島：「清羅にメール<sup>47</sup>しよ」『山間部に集合ー』

七種：では次いきますぜー

七種：サーカス襲撃について UGN で 《巨匠の記憶+コンセ》 でいこう

【情報：UGN】

七種：14 (1 クリティカル)

七種：【侵蝕率】 76→79

---

<sup>47</sup> 清羅にメール：不登場のため、独自調査中であった。

桜庭：「さて、どこかに隠れてないかな…」会場から離れた隠れ場所になりそうなところを漁っている

桜庭：「化け物に襲われてソフィアも怯えてたし中止になったら最悪の思い出になるよね…頑張らなきゃ！」

桜庭：「化け物も出ないし、今のところは平気かな…ちょっと昼寝しよ」

桜庭：Zzz…Zzz…

桜庭：「スイーツいっぱい…太らないお菓子…やった…Zzz」

桜庭：pururu…

桜庭：ビクッ

桜庭：「ふぁ…メール…？」

・サーカスを襲撃したオーヴァード (知識：遺産 6,8 or 情報：UGN 8,10)

サーカスを襲撃したオーヴァードは、疑心の群れと呼ばれるレネゲイドビーイングに酷似している。

疑心の群れは、過去に学園島近辺で発見された遺物に宿っていた。

当初は誓約の瞳と認識され、学園島の遺物との関連が調査されていたが、危険なため嚴重封印処分となった。

-----  
人心を操る力を持ち、融合によって契約者にそれを与える。

契約者に忠実であり、可能な限り契約者を守ろうと行動するが、契約者の意識が急に途絶えた場合、制御不能となり危険である。

破壊は困難だが疑心の群れに一定のダメージを与えることで不活性化することは可能。

七種：「これは……佐藤氏の読み通りか!」

七種：「しかしまたなんて厄介そうな"遺産"……!」

桐島：「なんで嚴重封印指定のもんが持ち出されてんだよ!」

雨宮：「まあよからぬことをしたいからだろうねえ…」

七種：「桐島氏、今の情報も桜庭氏へ<sup>48</sup>伝えておいてくれるか!」

二段階目が公開されたことにより、クライマックス時のルール<sup>49</sup>を公開した。

---

<sup>48</sup> 桜庭氏へ：

桐島：『Title：緊急』

桐島：『"カルペ・ディエム"が唆した相手が見つかった。相手は白樺遥。仮面をつけて山間部に向ったとのこと』

桐島：『どうも人心を操る遺産も使われているらしい。力を貸してくれ』

桜庭：『情報サンキュ、すぐ合流する』

桜庭：『P.S.その遺産使ったらストーカー減るんじゃない?』

桜庭：「うーん」伸びをして目を覚まさせる「行きますか」

桐島：『清羅もストーカーするの無しにしてくれたりとかか?口でお願いするよ』

桜庭：「本気にするかあ〜、既読無視でもいいや。女心?というか人の気持ち?学んで下さい…!」

<sup>49</sup> クライマックス時のルール：《領域の盾》使用時、必ず契約者>疑心の群れ>その他の優先度で身を守る。また、契約者か疑心の群れどちらか一方でも【HP】が0以下になった場合、クライマックスは終了する。ただし、契約者が先に【HP】0以下になった場合、疑心の群れの手により契約者は死亡する。

雨宮：乱心行きます

【情報：アカデミア】

雨宮：10

・黒瀬華の乱心 (知識：レネゲイド 6 or 情報：アカデミア 8)

黒瀬華の様子は明らかに常軌を逸したものであった。

が、暴走し衝動のままに行動するというよりは、どこか規則的、理性的な動きが隠されていたように思える。

第三者の介入があったと考えるのが妥当だろう。

雨宮：「というと…思考の隙間に何かを挟まれた、ような感じだろうか。5W1Hのどこかを組み替えるような」

黒瀬：「聞こえてた声ってそういうことだったのかなー…」

黒瀬：「もっと大きく、もっと派手にみたいなのそんな感じの声だったような…」

桐島：「……白樺遥が言いそうなことじゃあねえな？」

桐島：「なら”カルペ・ディエム”になりそうだが…今は関係ないか」

雨宮：「どうだろうね。人間、心の奥底では何を考えているか分からないものだから」

桐島：「どっちでも止めりゃあ終わりだな。行こう、清羅も来てくれる」

七種：「ショウアップは済んだわけだ」

## ■ クライマックスフェイズ

### □ シーン 9：山間部にて

七種：【侵蝕率】 79→88

桐島：【侵蝕率】 79→85

桜庭：【侵蝕率】 77→78

雨宮：【侵蝕率】 76→80

白樺は頭を抱えてうずくまっている。

白樺：「違う…私はこんなことしたいわけじゃない…」

七種：「よかった! いたぞ!」

白樺：「来ないで!」

桜庭：「先輩! その仮面はだめですよ! 有意義なエフェクト使用なんてできなくなります!」

白樺：「私は、私は…」

白樺：「うるさい! どうせみんな私が間違ってると思ってるんでしょう!」

桐島：「半分正解で半分間違ってる、って感じだな」

桐島：「管理すべき。それは正しい」

桐島：「見世物にしてはいけない。それは正しくない。アンタ個人の願いだそれは」

白樺：「そんなことはない! 正しいのは私なの!」

雨宮：「まー少なくとも管理側の立場に向いているメンタルの構造ではあるまい」

雨宮：「『うるせえ私に従え!』と心の底の本心で言える人間でもなければね」

声：「ジャア、ナンデワタシハダメダッタノ?」白樺の感情を代弁するように、声が聞こえる<sup>50</sup>

声：「どうして、私をそんな目で見えるの?」(以降、通常表記で記載)

桐島：「いい質問だな! まずなんでダメだったのか、考えるのは大事だ」

桐島：「お前最初に失敗した時に自分の気持ちを誰かに話したか?」

桐島：「ダメだぜ、そういうの! 自分が正しいのに何で失敗なんだって周りを恨みだしたりするのはひじょーによくない!」

声：「私は悪いことしてないのに、皆怯えた目で私を見た」

桐島：「ああ、オーヴァードが時たまそうみられる奴な。エグザイルとかが顕著だが。そういうのを怖くないって思って貰えるように活動してるのがサーカス団の皆だ。お前も仲間にして貰ったらどうだ」

声：「私が友達になりたかった皆は、もうここにはいない」

---

<sup>50</sup> 声が聞こえる：疑心の群れは、契約者の精神を写し取る(《悪夢の鏡像》+《変異する悪夢》)。契約者の精神が衰弱しているとき、疑心の群れの口からは契約者しか知りえない言葉が溢れ出す。ただ意味もなく垂れ流しているのか、誰かに聞いてほしいのか、契約者に成り代わろうとしているのか。その真意は誰にもわからない。

声：「私はみんなのためだったのに、あの人は私が悪いといった」

桐島：「次！みんなのためでも怒られることはある！俺は怪我人を減らそうと辻ディヴィジョンを繰り返してるが風紀委員に見つかると怒られる！」

桐島：「お前のやったそれは社会のルールから見て本当に正しかったか？」

声：「わからない、でも、少なくともあの人のルールからは外れていた」

声：「そう、だから私はルールを守るの」

声：「ルールを守れば怒られない、そうすればみんな褒めてくれる」

雨宮：「……そうだな」

雨宮：「ルールを守るのは…正しい事だとも」

桜庭：「怯えてどうした！殴られでもしたのか！私の母は私がクスリをいさめる度に私を殴ったぞ！」

桐島：「ルールから見て正しくても怒られることはあるぞ！最近清羅が無理すんな無理すんなってキレてくる<sup>51</sup>！俺は無理してません！」

声：「あなたはいいね、それはきっと好かれている証拠」

声：「どうせみんな、私の事は嫌いなんだ。私は好かれるようなことなんてできない」

桐島：「そこだよ！一番ダメなのそこ！」

桐島：「勝手に自分のことは嫌いなんだーって決めつけてる奴は好かれねえって！めんどくせえもん！」

---

<sup>51</sup> キレてくる：

桜庭：「人道的な話だろそれ！」

桐島：「これ俺のライフワークだから！」

桜庭：「ライフワークで命を削るな！」

桐島：「まあそこは価値観の相違というかなんというか」

桐島：「命を使っても欲しいものがある、的な」

桐島：「変えてこ！自己認識！<sup>52</sup>」

桐島：「言っておくけど俺は自分のこと好きだぞ！道徳的だという自負があるからなあ！」

声：「ああ…なんて妬ましい」

声：「明るい顔で明るい言葉を話す…私になりたくてそして大嫌いな人間」

桐島：「お前もルールを絶対に守るって決意があるならその自分は好きになってやれよ！」

桐島：「俺はそういうやつ好きだぜ」

声：「本当はルールなんて大嫌いだもの。守れば褒められるから守ってるだけ」

声：「怖い、何もかも。あんな目も、あんな顔も」

桐島：「いいじゃねえかよ。褒められたいのが何が悪いってんだ」

桐島：「俺も出来れば褒められたいけど最近周囲が冷たくてなあ」

桐島：「お互い思い通りにはいかねえもんよな」

声：「…ごめんね、それでも私はその言葉が憎いの」

声：「憎くて憎くてたまらないから…私には届かない」

桐島：「じゃあどうすれば届くんだよ」

桐島：「というかまず確認するわ。届かせるつもりある？」

---

## <sup>52</sup> 変えてこ！自己認識！：

雨宮：「…変えてこって言って変わったら苦労はないんだけどねえ」

桜庭：「…そうだね」

桐島：「でも変えよーとしねえと変わらねえじゃん。なら動かねえと」

桜庭：「頑固者筆頭に言われてもなあ…」

桐島：「俺のどこが頑固者なんすか」

桜庭：「自分の胸に聞いて…面倒くさい」

桐島：「未羽さん、最近清羅が冷たいんすよ」

雨宮：「それはきっと好意の裏返しでしょう」

桐島：「そうなん？」 清羅に

桜庭：「はあ？」

桐島：「未羽さん？」

雨宮：「ツンデレツンデレ」

桐島：「今のめっちゃ怖かったんだけど…」

桜庭：「雨宮さん…変なこと吹き込まないでよ…」 ムスっとする

雨宮：「私に言わせてもらおうとだな」

雨宮：「素直になればイチコロだと思うのになんで素直にならないか分からないなー」

桜庭：「はあー？そんなんじゃないですう。恋愛脳やめてくださいーい」 さらに不機嫌になる

桐島：「清羅が好きなのはベアトリスだもんな！」 同調しておく

桜庭：「もうフラれたから最近のはふざけてるだけだよ？」 ホントこいつ…みたいな顔をする

桐島：「あっ、そうだったのか。ごめん、無神経だった」

七種：「(いつの日か首ライターでは済まないことになるのではないか……?)」と遠くから眺めておく

桐島：「それがねえなら俺がじゃなくても誰が何言っても無駄だぜ」  
桐島：「お前に変わろうする意思があるのか、否か」  
桐島：「ないなら周囲にどれだけ変わるお前を許容する人間がいても無駄だ」  
声：「本当はね、わかってるの。みんなが頑張ってること」  
声：「みんなの頑張りがあれば、あんな目はもう見ないで済むはずなの」  
声：「厳しい声も聞かないでいいはず」  
桐島：「いやーそれはどうかな。俺今現在進行形で厳しい言葉を投げかけられてるぜ」  
声：「その厳しさは違うと思う…」  
雨宮：「まあ、いいではないか、啓一」  
雨宮：「なあきみ」  
雨宮：「私は、きみの言ってる事そこまで間違ってるとは思っちゃないぜ」  
雨宮：「ただ今までは何か足りなかつただけなんだともさ」  
声：「…もし、あなた達が私の妬み、憎しみに勝ったなら」  
声：「その時は…」  
雨宮：「そうそう」  
雨宮：「要するに足りないものってのは……」  
雨宮：「ブン殴る覚悟と、ブン殴られる覚悟だよ」  
雨宮：「だってそういうものだろう？ 立ち直るヒロインってのはさ」  
声：「…うん」  
雨宮：「じゃ、なってみようやってみよう」  
雨宮：「あなたにはその権利があるから」  
七種：「……どうも、皆が語った以上のことは余の頭からは出てきそうにもない」  
七種：「と、なれば、だ！ 余に出来ることはひとつのみ！」  
七種：「全力で来い！ こちらも全力でいこう！」  
七種：「以上である！」と高笑いしてマシンを構えよう  
雨宮：「ひゅー！ いいなあ七楽も、タイプは違うけどおんなじだね」  
声：「…」

白樺：「ええい！何をごちゃごちゃとわけのわからないこと<sup>53</sup>を！」

白樺：「私の邪魔をするなら…消えて！」

白樺は吠え、空気が張り詰める。

衝動判定、目標値は9となる。

---

<sup>53</sup> わけのわからないこと：白樺の精神は衰弱している。今の彼女に聞こえているのはただの音だ。

### 【衝動判定】

七種：10

桐島：26 (2クリティカル)

桜庭：6

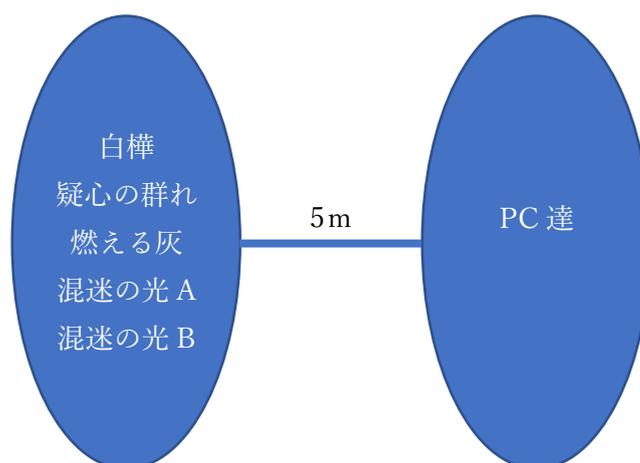
雨宮：7

七種：【侵蝕率】 88→100

桐島：【侵蝕率】 85→90

桜庭：【侵蝕率】 78→93

雨宮：【侵蝕率】 80→89



### 【行動値】

白樺<sup>54</sup>：21

桜庭：13

疑心の群れ<sup>55</sup>：12

燃える灰：9

雨宮：8

混迷の光 A&B：8

七種：7

桐島：7

---

<sup>54</sup> 白樺：エンジェルハイロウ／モルフェウスの感覚 RC 型。《砂の加護》＋《砂塵霊》で攻撃力を増強している。

<sup>55</sup> 疑心の群れ：契約したことにより、《原初の黒；融合》等が解禁された。ミドルとは異なり、白樺と融合して戦うスタイルとなる。HPのみ非公開。

## ▼ 1 ラウンド目：セットアッププロセス

1 ラウンド目のセットアッププロセス<sup>56</sup>では、七種が PC 達の行動値を上昇させ、桜庭が暴走と引き換えに自身の火力を強化、桐島が自身の行動値上昇及び下準備を行った。

エネミーは、疑心の群れが白樺に融合し、燃える灰が自身の【行動値】を上昇させた。

混迷の光は、AB 共に、PC 達へ光を放った。

七種：【侵蝕率】 100→104

桐島：【侵蝕率】 90→96

桜庭：【侵蝕率】 93→96

### 【行動値】

桐島：7→20

白樺：21

燃える灰：9→19

桜庭：13→18

雨宮：8→13

七種：7→12

疑心の群れ：12

混迷の光 A&B：8

## ▼ イニシアチブプロセス

白樺前のイニシアチブプロセス<sup>57</sup>では、疑心の群れが暴走し、自身の判定ダイスを増加させた。

---

### <sup>56</sup> 1 ラウンド目のセットアッププロセス：

桜庭：怨念の呪石 侵食値 3 暴走

燃える灰：《原初の黄:先陣の火》：【行動値】 +10。1 シーン 1 回。

疑心の群れ：《原初の虚:融合》:このラウンド中、対象は取得しているエフェクトを使用可能。

混迷の光 A&B：【誘蛾灯】:原初の黄:ショウタイム+ラピッドファクトリー+幻想の色彩 このエネミーを含まない攻撃を行う場合判定ダイス-2。

七種：《クロックフィールド》セットアップ/自動成功/範囲(選択)/至近/4/RW34/ラウンド中【行動値】 +5/  
シナリオ[LV]回

桐島：Set:アクセル+原初の白:限界突破 行動値+8:限界突破指定/雲散霧消:浸食値+6

### <sup>57</sup> 桐島前のイニシアチブプロセス：

疑心の群れ：《バーサークセルフ》:暴走し、このラウンド中、命中判定ダイス+2 個。1 シナリオ 2 回。

疑心の群れ：《背徳の理》+《極限暴走》:暴走時使用、シーン中ウロボロス判定ダイス+8 個。

▼ 行動値 21：白樺

白樺のメインプロセス<sup>58</sup>では、PC 達の身を削るべく砂が舞った。

【命中判定】

達成値：48 (3 クリティカル)

【リアクション】

七種：ドッジ 9

桐島：ドッジ 8

桜庭：暴走中

雨宮：ドッジ 8

【ダメージロール】

ダメージ：61 点 装甲無視 ガード値-5

桐島が七種に対し、《ディヴィジョン》を宣言。七種の受ける HP ダメージが 30 点となり、反動として 30 点の【HP】を失った。

加えて、《雲散霧消》を宣言。PC 全員が受ける HP ダメージが-30 された。

【HP】

七種：29→29 (装甲無視)

桐島：24→-6

桐島：-6→4 《リザレクト》

桐島：4→-28 (装甲無視)

桐島：-28→11 ロイス 6→5

桜庭：23→-8 (装甲無視)

桜庭：-8→2 《リザレクト》

雨宮：28→-3 (装甲無視)

雨宮：-3→6 《リザレクト》

桐島：【侵蝕率】 96→107

桜庭：【侵蝕率】 96→98

雨宮：【侵蝕率】 89→95

---

<sup>58</sup> 白樺のメインプロセス：

白樺：《要の陣形》(1 シナリオ 4 回)+《未知なる陣形》+【サンドブラスト】:コンセントレイト:エンジェルハイロウ+光の手+ピンポイントレーザー+砂の刃+【汝を求む】:コンセントレイト:オルクス+原初の赤:スキルフォーカス+ダンシングシミター 装甲値無視、ガード値-5

白樺：《砂の加護》+《砂塵霊》:判定ダイス+5 個、攻撃力+16。1 ラウンド 1 回。

【行動値】

桐島：20→22

桐島：「さっき殴られる勇氣と殴る勇氣とかなんとか言ってたけど……俺は片方持ってないのが締まらない話だが……いいパンチだ」

七種：「桐島氏! ……すまん! 礼は戦闘の後で!」

白樺：「なっ…どうして!」

桐島：「ははは、こいつらを傷付けたいなら俺を殴り倒すのが先だ」

▼ 行動値 22：桐島

桐島のメインプロセス<sup>59</sup>では、PC 達にバフがいきわたった。

桐島：【侵蝕率】 107→118

▼ 行動値 19：燃える灰

燃える灰のメインプロセス<sup>60</sup>では、燃える灰が PC 達に到達。四肢を絡めとる炎が吹き上がった。

桐島：うわあオート無効化クソ野郎が来た！

【命中判定】

達成値：13

【リアクション】

七種：ドッジ 8

桐島：ドッジ 17 (1 クリティカル)

桜庭：暴走中

雨宮：ドッジ 9

【ダメージロール】

ダメージ：27 点 装甲有効

---

<sup>59</sup> 桐島のメインプロセス：

桐島：Main:狂戦士+タブレット+多重生成 射程視界/4人/ダイス+6個/C値-1(下限6):浸食値+11↑100%

<sup>60</sup> 燃える灰のメインプロセス：

燃える灰：【炎の呪詛】:原初の赤:災厄の炎+背教者殺し ダメージ時、ラウンド中判定ダイス-3

【HP】

七種：29→25 (装甲 23)

桜庭：2→-17 (装甲 8)

桜庭：-17→2 《リザレクト》

雨宮：6→-13 (装甲 8)

雨宮：-13→2 《リザレクト》

桜庭：【侵蝕率】 98→100

雨宮：【侵蝕率】 95→97

▼ 行動値 18：桜庭

桜庭のメインプロセス<sup>61</sup>では、燃える灰へと水銀が牙をむいた。

【命中判定】

達成値：44 (3 クリティカル)

【リアクション】

燃える灰：《イベイジョン》 14

【ダメージロール】

ダメージ：93 点 装甲有効

【HP】

燃える灰：33→-60 (装甲 0)

桜庭：「右に鸞、天に聳えて陽に満ち」

桜庭：「左に和、盆に湛えて陰に沈む」

桜庭：「汝、君子なるか」

桜庭：「六道、鎖びて霧中の蛇」

桜庭：「涅槃、帰依て泥中の鯉」「仙郷、登りて晴天の龍」「此処に永世」

桜庭：「呑め」

桜庭：『波旬繆砂龍』

桜庭：【侵蝕率】 100→117

---

<sup>61</sup> 桜庭のメインプロセス：

桜庭：マイナー

桜庭：【鸞&和】：ハンドレッドガンズ+ダブルクリエイト 侵蝕値 8

桜庭：メジャー

桜庭：波旬繆砂龍 コンセントレイト+マルチウェポン+ブルータルウェポン 疑心の群れに攻撃

白樺：「くっ…」

### ▼ 行動値 13：雨宮

雨宮のメインプロセス<sup>62</sup>では、桐島の援護を受けながら、敵全員へと冷たい雨が降り注いだ。

#### 【命中判定】

達成値：33 (2 クリティカル)

#### 【リアクション】

白樺：暴走中

疑心の群れ：《幸運の守護》+《イベイジョン》:(10\*2+5)=25 でドッジ。

混迷の光 A&B：《原初の緑:竜鱗》装甲値+20

疑心の群れは《原初の黒：勝利の女神》を宣言。達成値を+18 し、43 で回避する。

#### 【ダメージロール】

ダメージ：28 点 装甲有効

疑心の群れは《領域の盾》を宣言。

混迷の光 A に白樺へのカバーリングを行わせた。

#### 【HP】

混迷の光 A：26→10 (装甲 20)

混迷の光 B：26→18 (装甲 20)

桐島：【侵蝕率】 118→120

雨宮：【侵蝕率】 97→108

雨宮：「私の言いたい事はさっきの言葉がすべてさ」

雨宮：「結局のところ、嫌われてるんじゃないか、だの、私は正しいのに、だの」

雨宮：「君にはごく当然の価値があり、自信を持ってしかるべき存在なのだから」

白樺：「そんな言葉が何の気休めになるとでも!」

雨宮：「もっと胸を張りたまえよ」

雨宮：「気休めだとは思わないな。だって実際、そうなのだから」

雨宮：「持たざるものからすればね」

---

<sup>62</sup> 雨宮のメインプロセス：

雨宮：《六月の雨》：《雨粒の矢》+《マインドエンハンス》+《虚構のナイフ》

桐島：Auto:A ランクサポーター ダイス+2 個:自分対象不可:浸食値+2

## ▼ イニシアチブプロセス

七種前のイニシアチブプロセス<sup>63</sup>では、七種が《マグネットムーブ》を使い、混迷の光 B を PC 達のエンゲージへと引き寄せた。

七種：【侵蝕率】 104→107

## ▼ 行動値 12：七種

七種のメインプロセス<sup>64</sup>では、多脚戦車の一撃が眼前の混迷の光 B へと放たれた。

### 【命中判定】

達成値：47 (4 クリティカル)

### 【リアクション】

混迷の光 A：《原初の緑:竜鱗》装甲値+20

### 【ダメージロール】

ダメージ：76 点 装甲無視

### 【HP】

混迷の光 A：18→-58 (装甲無視)

七種：「余の全力すなわちアルの神髄! その一端をお見せしようではないか!」

七種：「悲しいかな、余に機械への適応性はあれど、射撃の才はなかった!」

七種：「されどこのアルにはまだまだ遠距離火器を積む余地がある……ならばどうするか!」

七種：「答えは簡単!」

七種：「接触して! ブチ当てるってことだ!」

七種：「……ま、ノイマンなどはこのような無作法をせんでも、ゼロ距離射撃などを成功させるらしいが」

七種：「余にはこれしかできぬ! これこそが本気ってわけよ!」

---

### <sup>63</sup> 七種前のイニシアチブプロセス：

七種：《マグネットムーブ》イニシアチブ/—/自動成功/単体/効果参照/3/80%/組み合わせ不可/[LV\*10]m の対象を自分のエンゲージまで移動(離脱可)/シーン 1 回

### <sup>64</sup> 七種のメインプロセス：

七種：《ボルターガイスト》マイナー/自動成功/自身/至近/4/100%/シーン中攻撃力+[選択した武器の攻撃力]/武器は破壊される

七種：【ギガント・マキア】《巨匠の記憶+コンセントイレイト+クリスタライズ》メジャー/運転:多脚戦車/対決/単体/武器(至近)/7

七種：【侵蝕率】 107→118

▼ 行動値 8：混迷の光 A

混迷の光 A のメインプロセス<sup>65</sup>では、雨宮に対し、影の腕が伸びる…

【命中判定】

達成値：12

【リアクション】

雨宮：ドッジ 9

【ダメージロール】

ダメージ：21 点 装甲有効

桐島が《雲散霧消》を宣言。受ける HP ダメージが-30 された。

【HP】

雨宮：2→2 (装甲 8)

桐島：【侵蝕率】 120→124

---

<sup>65</sup> 混迷の光 A のメインプロセス：

混迷の光 A：【影招き】:餓えし影

## ▼ 2 ラウンド目：セットアッププロセス

2 ラウンド目のセットアッププロセス<sup>66</sup>では、桐島が自身の行動値上昇及び下準備を行い、雨宮が他 PC の火力を強化した。

エネミーは、疑心の群れが白樺に融合し、混迷の光 A が PC 達へ光を放った。

桐島：【侵蝕率】 124→130

雨宮：【侵蝕率】 108→114

### 【行動値】

白樺：21

桐島：7→17

桜庭：13

疑心の群れ：12

雨宮：8

混迷の光 A：8

七種：7

## ▼ イニシアチブプロセス

白樺前のイニシアチブプロセスでは、白樺が《加速する刻》を使用。

## ▼ 加速する刻：白樺

白樺のメインプロセス<sup>67</sup>では、白樺が雨宮を操ろうとする。

### 【判定】

達成値：46 (3 クリティカル)

雨宮は《マインドエンハンス》をリアクションに乗せ、抵抗を図るが…

### 【リアクション】

雨宮：8

---

### <sup>66</sup> 2 ラウンド目のセットアッププロセス：

疑心の群れ：《原初の虚:融合》:このラウンド中、対象は取得しているエフェクトを使用可能。

雨宮：《常勝の天才》 自分以外 atk+32

混迷の光 A：【誘蛾灯】:原初の黄:ショウタイム+ラピッドファクトリー+幻想の色彩 このエネミーを含まない攻撃を行う場合判定ダイス-2。

桐島：Set:アクセル+原初の白:限界突破 行動値+8:限界突破指定/雲散霧消:浸食値+6

### <sup>67</sup> 白樺のメインプロセス：

白樺：【ゴットアップアフェア】:コンセントレイト:エンジェルハイロウ+光の手+原初の赤:スキルフォーカス+ナーブジャック 〈意志〉と対決

桐島：ダイスさんはさあ

白樺：「貴方も苦しめばいい!」

白樺の瞳が輝いたかと思うと、雨宮の脳に声が響き渡る。

恐怖、憎悪、その他感情がないまぜになった破壊命令が下る――

雨宮：【侵蝕率】 114→117

▼ ナーブジャック：雨宮

雨宮のメジャーアクション<sup>68</sup>では、白樺の破壊命令に従い、悲しい雨が降る…

【命中判定】

達成値：23 (1 クリティカル)

さらに白樺は《原初の黒：勝利の女神》を使用。達成値を 41 にする。

【リアクション】

七種：ドッジ 11 (1 クリティカル)

桐島：ドッジ 17 (1 クリティカル)

桜庭：暴走中

【ダメージロール】

ダメージ：70 点 装甲有効

桐島が《雲散霧消》を宣言。PC 全員が受ける HP ダメージが-30 された。

【HP】

七種：25→8 (装甲 23)

桐島：11→-29 (装甲 0)

桐島：-28→11 ロイス 5→4

桜庭：2→-30 (装甲 8)

桜庭：-30→11 ロイス 6→5

雨宮：6→-30 (装甲 8)

雨宮：-30→11 ロイス 5→4

---

<sup>68</sup> 雨宮のメジャーアクション：

GM：《雨粒の矢》+《虚構のナイフ》お願いね

白樺：《砂の加護》+《砂塵霊》:判定ダイス+5 個、攻撃力+16。1 ラウンド 1 回。

白樺：あげるね

桐島：【侵蝕率】 130→134

雨宮：【侵蝕率】 117→125

雨宮：「……大丈夫だよ、お母さん」

雨宮：「僕はちゃんと、あなたよりも……」そう言って雨を降らせる。その雨は先ほどと同じものだったが… その心境はどこか、雨の日の葬儀を思い起こさせた。それは、外傷なしに戦意を奪っていく…… 絶望ではなく、“人生の先”を見えなくさせる雨。“失意”の雨――

桐島：「うわーっ！今までで一番激しくねこの雨！」

七種：「なるほど、我が身に喰らうとこれほどに恐ろしいものとは……」

七種：「だが斃れない！斃れるわけにはいかないのだ！」

桐島：「凄いぞ七楽ーかっこいいぞ七楽ー」

桜庭：「いや、またあのころに戻りたくない…」

桜庭：「戦わなきゃ…私の渴きは…」

桜庭：「戦えばあの人は愛してくれる…」

白樺：「ふふ…どうせ人の心なんてこんなもの…!」

雨宮：「っ……？」

雨宮：「……おっと、……おっといけない。今は… 今はまだ私は支援する側だった。平常心平常心」《代謝制御》で無理やり自分の精神を安定させ、しっかりと前を見据える。立ち向かうべき相手を

#### ▼ 行動値 21：白樺

白樺のメインプロセスでは、PC 達の身を削るべく砂が舞った。

#### 【命中判定】

達成値：50 (3 クリティカル)

#### 【リアクション】

七種：ドッジ 19 (1 クリティカル)

桐島：ドッジ 17 (1 クリティカル)

桜庭：暴走中

雨宮：ドッジ 3

#### 【ダメージロール】

ダメージ：51 点 装甲無視 ガード値-5

桐島が《ディヴィジョン》を《タブレット》+《多重生成》により拡大宣言。PC 全員が受ける HP ダメージが 25 点となり、反動として 100 点の【HP】を失った。

加えて、《雲散霧消》を宣言。PC 全員が受ける HP ダメージが-30 された。

### 【HP】

七種：8→8 (装甲無視)

桐島：24→-6

桐島：-6→4 《リザレクト》

桐島：11→-89

桐島：-89→11 ロイス 4→3

桐島：11→11 (装甲無視)

桜庭：11→11 (装甲無視)

雨宮：11→11 (装甲無視)

桐島：【侵蝕率】 134→145

### ▼ 行動値 17：桐島

桐島のメインプロセスでは、PC 達にバフがいきわたった。

桐島：【侵蝕率】 145→156

### ▼ 行動値 8：雨宮

雨宮のメインプロセス<sup>69</sup>では、冷たい雨が降り注ぐ…

### 【命中判定】

達成値：34 (2 クリティカル)

### 【リアクション】

白樺：暴走中

疑心の群れ：《幸運の守護》 + 《イベイジョン》 :  $(10 \times 2 + 5) = 25$  でドッジ。

混迷の光 A：《原初の緑:竜鱗》 装甲値+20

### 【ダメージロール】

ダメージ：40 点 装甲有効

疑心の群れは《領域の盾》を宣言。

混迷の光 A に白樺へのカバーリングを行わせた。

### 【HP】

疑心の群れ：(0)→(-40) (装甲 0)

混迷の光 A：10→-30 (装甲 20)

---

<sup>69</sup> 雨宮のメインプロセス：

雨宮：《雨粒の矢》 + 《虚構のナイフ》

雨宮：【侵蝕率】 125→133

▼ 行動値 12：七種

七種のメインプロセスでは、七種が近づき、多脚戦車の一撃を叩き込もうとするが…。

疑心の群れ：《絶対拒絶》:エンゲージしたキャラクターは侵蝕率が 1d10 上昇する。

七種：【侵蝕率】 118→126

だが、近づくものを破壊しようとする精神の濁流に打ち勝ち、一撃を叩き込む！

【命中判定】

達成値：78 (7クリティカル)

更に雨宮が《勝利の女神》を乗せ、87 となる！

【リアクション】

疑心の群れ：《幸運の守護》+《イベイジョン》:(10\*2+5)=25 でドッジ。

【ダメージロール】

ダメージ：112 点 装甲無視

【HP】

疑心の群れ：(-40)→(-152) (装甲 0)

七種：「雨宮氏の指示と桐島氏の手助け! この二つがあればなあ!」

七種：「打ち碎けぬものなどないのだ! 概ねはな!」

白樺：「おのれ…だがまだ!」

桜庭：「あれだけ喰らってまだ…!」

七種：【侵蝕率】 126→133

雨宮：【侵蝕率】 133→137

▼ 行動値 18：桜庭

桜庭のメインプロセスでは、疑心の群れへと致命の一撃が撃ち込まれる。

【命中判定】

達成値：54 (4 クリティカル)

【リアクション】

疑心の群れ：《幸運の守護》 + 《イベイジョン》 :  $(10*2+5)=25$  でドッジ。

【ダメージロール】

ダメージ：107 点 装甲有効

【HP】

疑心の群れ：(-152)→(-259) (装甲 0)

疑心の群れの【HP】は 210 点である。すなわち……

桜庭：「その疑心、私の水銀で溶かしてあげる」

疑心の群れ：「ありがとう…よろしくね」

桜庭：【侵蝕率】 117→126

□ バックトラック

Eロイスの数は、4個である。

【Eロイス】

桐島：【侵蝕率】 156→140

桜庭：【侵蝕率】 126→101

雨宮：【侵蝕率】 137→109

【バックトラック】

七種：【侵蝕率】 133→89 (6個)

桐島：【侵蝕率】 140→106 (3個×2)

桜庭：【侵蝕率】 101→64 (5個)

雨宮：【侵蝕率】 109→86 (4個)

【追加振り】

桐島：【侵蝕率】 106→92 (3個)

## ■ エンディングフェイズ

### □ シーン 10：戦いの後に

疑心の群れが水銀に飲み込まれたことにより、白樺を追い込んでいた仮面の効果は失われた。彼女の瞳から、休眠状態となった宝玉が落ち…そして、仮面もまた、ぼとりと落ちた。

白樺：「…終わった、のですね」

桐島：「だな」時節倒れそうになりながらも起き上がる

白樺：「私は少々過去に囚われすぎていたのかもしれませんが…ご迷惑をおかけしました」

七種：「まったく……互いに無茶をしすぎだ。桐島氏も白樺氏も……」

桐島：「いいっていいって。前向けるきっかけになったんなら幸いさ」

桜庭：「ホントにね…」

桜庭：「過去はきちんと清算しなきゃ…」

雨宮：「ま、ちゃんと反省してくれるなら何よりだよねー」

桐島：「じゃあ帰る…前に部長んとこに行かないとな」

白樺：「ええ、色々と償わないといけませんし」

桜庭：「黒瀬さんになにかしたの？襲う以外で」

白樺：「現場は見えていませんが…おそらく、会場の方で騒ぎになっていましたでしょうか？」

桐島：「俺と七楽で止めたから、被害とかは出てねーんだけど」

桜庭：「あー、メールでしか知らないや」

桐島：「やっぱダメじゃね？的な雰囲気か」

桜庭：「それはきちんと謝らなきゃだね」

白樺：「そうですか…ひとまず、原因は根絶されたとして私から説明させていただきます」

白樺：「細かいところについては…どこまで明らかになるかはわかりませんが追って沙汰が下るといったところでしょうか」

桜庭：「そうだね…風紀委員はもうできないかもね」

七種：「あとは監査は付くかもしれんな」

桐島：「そのあたりは俺からは何にも言えねえけど」

桐島：「色々済んでさ、んでまた困ったり悲しいこととかあったりしたら」

桐島：「思い悩む前に来いよ。相談くらいになら乗ってやれるし、味方にもなってやれるから」

白樺：「そうですね、あなた方には感謝してもしきれません」

白樺：「それでは…」

"カルペ・ディエム"：「あらまあ、万事解決みたいな雰囲気出してくれちゃって」

桜庭：「誰？」

桐島：「出たな元凶」遙を庇うように前に出よう

"カルペ・ディエム"：「もうちょっと見物になるかと思ったけれど残念だわ」

桐島：「そうか？”プラネータ”は楽しんだらろうと思うけどな」

七種：「.....誰かは知らんが、口ぶりからして黒幕と考えていいのか？」

"カルペ・ディエム"：「"カルペ・ディエム"...どうぞお見知りおきを？」

桜庭：「アンタが桐島くんの言ったた…また女か<sup>70</sup>…」

桐島：「で？こっちは色々丸く収まった所なんだが」

雨宮：「わお美人さんだねー」

桐島：「お前らのが美人じゃね？」

桜庭：「うわっ…」

「すぐ齒の浮くようなことを」

桐島：「俺は素直な感想を...うわっって...」

"カルペ・ディエム"：「女泣かせな男の人ね...なかなか周りに恋多そうで興味深いわね」

"カルペ・ディエム"：「まあ、それはいいとしましょう」

"カルペ・ディエム"：「今日のところはただの顔見せと...あと、その廃棄物は捨てておいてもらえるかしら」

桜庭：「“廃棄物”？」

雨宮：「...」

"カルペ・ディエム"：「そこの宝玉の話ね。もう要らないし使い道もないから返したのだけれど」

桐島：「そもそも盗むな」

桐島：「てかこれは返したとは言わねえ」

桜庭：「自分勝手だね」

"カルペ・ディエム"：「あら、別に盗んだ覚えはないわよ？ その子とあの子が戦ってる間に私のところに転がってきただけよ」物理的な意味ではないです

桐島：「詭弁を...」

七種：「ふん、減らず口を.....」

"カルペ・ディエム"：「気まぐれで自分勝手なのが私達なの。これからもいい舞台を期待しているわ？」

桜庭：「だから嫌いなんだよ…」

桐島：「.....俺らの気分を悪くするために来たのならもう帰っていいぞ。目的は達してる」

七種：「貴様のごとき三文芝居の脚本に、我々がそう易々と従うと思っていたら大間違いだぞ！」と強がる

雨宮：「まあ舞台を用意するのは脇役の務めだからね、任されたよ。 主役の側はそうでもないようだがね？」

桜庭：「舞台に上らない脇役なんて変だよ」

桐島：「上がらないのは裏方だな…」

---

<sup>70</sup> また女か：

桐島：流石にコイツに関しては俺悪くないよお！

桜庭：そうだね

GM：そうだね

七種：そうだね...

雨宮：「おっと？ そういわれればそうかな」

"カルペ・ディエム"：「さて、これくらいで十分かしらね。また会いましょう」

桐島：「あー、おい。やっぱちょっと待て」

"カルペ・ディエム"：「あら？」

桐島：「"プラネータ"に次来るとき<sup>71</sup>は仮面外せって伝言しといてくれ」

桐島：「ああ後ノックしろも追加」

---

#### <sup>71</sup> 次来るとき：

七種：「そこで来訪自体を拒否しないのが桐島氏なのだなあ……」

桐島：「……真っ当な友達を求めてるなら拒否するわけにもいかねえよ」

桜庭：「そのへん緩すぎるんだよなあ…いっそのこと誰かに管理された方がいいんじゃない？」

桐島：「例えば？」

桜庭：「さあ…？」

桐島：「ダメじゃん」

桜庭：「ぐっ…！」

雨宮：「清羅がやればいいのでは？」

桜庭：「いや、私は別にこいつの私生活にそこまで食い込むとかしたくないし？ 家族じゃないって言うか？」

桜庭：「なんか友人以上みたいで恥ずかしい」

雨宮：「いまさら？」

桜庭：「え？」わりと呆然としている

桐島：「ぶっちゃけ隣室の清羅が無理ならできる人いない？」

桜庭：「…そこまで言うなら、じゃあ、合鍵貸せ。マジで管理してやる」

桐島：「部屋に置いてあるからこの後来てくれ」

桜庭：「…ちょっとくらい慌ててくんないかな」聞こえないように呟く

桜庭：「分かった」

桐島：「あ、でも部屋ちょっと片づけたいから 30 分くらい待ってくれ」そういえば治療キット部屋に出しっぱなしだったなと思い出す

桜庭：（合鍵取られんのにそんなちょっとお茶するくらいのノリなの？ うそでしょ…？）

桐島：「……………」

桐島：「心配ばかり掛けてるからさ、お詫びみたいなもんだよ。そのために清羅働かせるのは変な話だけど」

桐島：「あんだけ言われたら申し訳ないって気持ちくらいは産まれるもんです」

桜庭：「そう…ごちゃごちゃうるさいとか責めないんだね…アンタらしいや…」

桐島：「俺のたを思ってだろ？ それに怒っちゃただのクズだ」

桜庭：「やっぱ私アンタに守ってもらってばっかだね…ありがとう桐島くん」

桐島：「んじゃあお互い様ってことで」

桜庭：「うん…」

"カルペ・ディエム":「それは私に言われても困るわね、私だってあの子の顔見たことないもの」

桐島:「はあ〜?お前ら仲間じゃねえの?」

"カルペ・ディエム":「さっきも言ったでしょう?私たちは気まぐれで自分勝手なの」

桐島:「あ、そ。じゃあもう用ないから帰れ帰れ」

"カルペ・ディエム":「そう、じゃあまたね」

桜庭:カルペ・ディエムが消えた虚空に撃ちます

GM:では、攻撃は空振りしますが、メッセージ付きのEXレネゲイドじゃない仮面を落としておきましよう

メッセージ:「欲しくなったときはどうぞ」

桜庭:「ざけんな」蹴り飛ばす

白樺:「…見に来たのか煽りに来たのかといったところですが」

白樺:「改めて行きましょうか…」

桐島:「ういー」と気の抜けた返事をしながら七楽の機体にもたれかかって「載せてくれー」

七種:「ああ。今は戦闘形態だから乗り心地は悪いが……文句は言うなよ」

桐島:「寝るスペースあればいい」

桐島:「……いややっぱあれだな。クッション買おうぜ七楽」

七種:「検討しよう」

雨宮:「ではついでにソファも」

桐島:「今猛烈に枕が欲しい。クッションがあれば枕代わりに出来る」

桜庭:「いっそキャンピングカー形態とかできない?」

七種:「炊飯器なら常備しているが……枕の代わりになるかな?」

桐島:「かてえよおー全身ボロボロの俺を労わって柔らかいのくれよー」

七種:「ええい、誰ぞに膝枕でもしてもらえ!」とか言いつつ何とか寝れるスペースに乗っけておこう

桐島:「それこそ望み薄じゃん」

七種:「そうかあ?頼んだらしてくれそうな人もいる気がするが……」

桐島:「女子にそういうの頼むのもしかしてセクハラじゃね…!?!」

七種:「そ、それを言われると怖いな……やはりキャンピングカー形態を真剣に検討すべきか……!」

桐島:「スケベ野郎として学校カーストの底辺に落とされちまう…!」

七種:「なんたることだ!」

七種:「……何の話をしてるんだ、我々は!」

桐島:「七楽の無意識スケベが垣間見えたワンシーンでしたね」

桜庭:「ちょっと男子ー?すぐいやらしい話するー風紀風紀!」

七種:「そ、そ、そんなことはない!今のは決して風紀案件では……!」

桐島:「俺はスケベを窘めていた側でーす!俺については冤罪でーす」

七種:「おのれ裏切り者ー!振り落とすぞ!」

桐島:「あっやめろやめて死んじゃう」

白樺：「まあまあ...落ち着いて」

桜庭：「あはは、慌てすぎでしょ七種くんウケる」

七種：「ええい、もういい! さっさといくぞ!」顔を赤くしつつさっさと移動しよう

会場へと戻り、白樺の口から事件が解決したことがその場の人々に説明された。

その後、真相が黒瀬へと知らされたものの、PC達のおかげで被害もなかったことから、無事和解となった。

サーカスの開催に支障のある被害が出ずに済んだこと。被害者である黒瀬が和解していること。PC達のとりなしがあったこと。結果的に、白樺の精神面によい方向の進展がみられたこと……これらから、教師陣は白樺を風紀委員として続投させることとした。

本件に関する反省文と、当面の綿密な報告義務という軽い処分ですんだのは、不幸中の幸いであろう。

## □ シーン 11：大団円

そして、サーカス当日。

何事もなく式は始まり、そして今、終わりを迎えようとしている。

黒瀬：「これにて、全演目終了となります、皆様ありがとうございました!」

ソフィア：「すごかった…満足…」

幕は下りる中、生徒たちは歓声と拍手で応えている……その中には、白樺の姿もあった。

佐藤：「いやー、無事に全部終わってよかったねえ」

桜庭：「さすがに本番までちょっかいかけないか…」

桐島：「サーカスも悪くないな。今まで敬遠してたが」

七種：「くっ……アンコールがないのが悔やまれる……!」マシンの上に飲み物とポップコーンを乗せた完全形態で観てた

桐島：「楽しんでんな…」

桜庭：「全力すぎでしょ…でもいいねそれ」

雨宮：「まあ、先ほど見た演目と同じ物はちょっとダレてしまった感は否めないがね…」

桐島：「まあそこは仕方ねえよなあ…」

白樺：「まあ、リハーサルと本番というものはそういうものでしょう」

雨宮：「そうだね。 むろん初めて見る物にとっては焼きまわしてもなんでもないのであるが」

桐島：「よ、遙」

白樺：「はい、こんにちは」

桜庭：「こんにちは、先輩」

桐島：「あんだけ言われたら申し訳ないって気持ちくらいは産まれるもんです」

白樺：「リハーサルと本番で違いがあるようならそちらの方が困りますからね…」

白樺：「まあ、本番は周りの人の反応も見て楽しむものと思えばよいでしょう」

七種：「ああ、やはり本番の方がノリがいいな……観客がいるというのは演者によい影響を与える」

桐島：「こんな大量の拍手はなかったしな」

桐島：「それに……うん。敵が来ることを警戒せずにみられるのが一番だな」

雨宮：「ではここらへんで私が裏切って敵になってみるというのは？」

桐島：「俺が泣く」

白樺：「…まあ、本来何も気にしないで楽しんでいただくための見張りが風紀委員のはずだったのですが」ちょっと後ろめたい所があるご様子

桐島：「今はちゃんとその任全うしてんだろ？気に病むことねーって」

桐島：「部長さんに謝って部長さんは許してくれて、風紀委員からの沙汰も降りた」

桐島：「じゃ遙のやらかしはもう終わった話だって。警備しながら楽しむのが、一番部長さんも喜ぶさ」

七種：「うむ! こうして本番は恙無く完遂され、万雷の拍手を以って終了となった!」

七種：「これ以上の終幕はなかなか望めまい……それだけでも称賛に値する結果であろう」

白樺：「そうですね…なによりです」

桜庭：「ところで…今日ずっと気になってたんですけど、義務とか言ってますけど先輩はサーカス楽しめました?」

白樺：「実のところ、昨年までは見てはいてもあまり楽しんで見る余裕がありませんでしたから」

白樺：「改めて見て…まあ、楽しめましたね」

桜庭：「じゃあ良かったです。こういうエフェクトの使い方もいいものですね」

白樺：「そうですね、皆さん笑顔でしたし」

雨宮：「では参加してみるという話は?」

白樺：「流石にそれは…サーカス映えするような技ありませんし」

桐島：「お、いいじゃん。俺応援に行くぜ遥」

黒瀬：「あはは、そういうのもいいかもねー」

七種：「うお、もうこっちに来ても大丈夫なのか黒瀬氏!」

黒瀬：「大丈夫大丈夫、大きなものの解体はまた後だから」

黒瀬：「今はとりあえず撤収終わり」

黒瀬：「さてまあ、皆楽しんでくれたようで何よりかなー」

桐島：「おう、何事もなく終わったし、演目自体も面白かった」

七種：「大満足であった!」

黒瀬：「この日のために練習したかいあるねー」

雨宮：「うむー」

桜庭：「いやー素晴らしかったです黒瀬さん」

黒瀬：「みんなにそう言ってもらえるのが一番のご褒美かなー」

モブ部員「部長! そろそろ会場閉じますよ! だべってないで!」

黒瀬：「あはは…じゃあ、そういうことで」

黒瀬：「またよろしくねー」

桐島：「来年も楽しみにしてるぜー」

七種：「こちらこそ、また声をかけてくれればいくらでもお手伝いさせてもらおう!」

桜庭：「来年はリハーサルも何事もないように頑張るね」

黒瀬：「ありがとう、またねー」

こうして、サーカスに絡む事件はここに幕を閉じた。

いくつかのわだかまりは解け、裏に潜む影の姿はあらわになった。

が、それぞれの日常は大きく変わることはないだろう…今のところは

少し違うところとすれば…

桐島がエフェクトの無断使用を行った日、たまに謎の報告書が桜庭に届くようになったことだろうか…